

6月2日の難波先生の講話より

1 アクティブラーニングの必要性

- 今後、全校種でやるように県・国から指導が入る。
- 大学入試・高校入試などの入試改革が起こる。

やらなければならないと思わずに、上手に利用して生徒に力をつけていくことが大事

○学校では2つの目標を達成しなければならない。

【目標】

- ・資質・能力の目標
- ・教科の目標

達成するための手段

【方法】

アクティブラーニング、
グループ活動、協働学習

○小中連携がしやすくなる

- ・地域、地区、学校として必要な資質・能力を考える。

※小中の全教職員が同じベクトル（資質・能力）で児童・生徒を鍛えていく。

2 グループ活動

○目標達成のために授業の中に効果的にグループ活動を取り入れていく。グループ活動に入る前に個人思考の時間を取り、自分自身の考えを持つことが重要。

○以下の4つのグループ活動を状況に応じて効果的に使い分ける。

グループ活動の4つの手法

- ①ひろげる話し合い・・・意見をたくさん出す。ブレインストーミング
- ②まとめる話し合い・・・みんなで考えたものを1つにまとめる
- ③深める話し合い・・・自分の考えをグループで考察・練りあうことで、深い考えに導く。よりよい考えに精練する。
- ④分かち合う話し合い（分有）・・・グループで協力して1つのものを作る。

- ・中学校はまとめる話し合いが多い。しかし、本当に必要なのは深める話し合いである。

（話し合いをした後に、今までの自分の考えに相手の考えを書きたす。（深める））

- ・グループ活動を効果的に行うためには話し合いのスキルが必要である。

（小学校において全員が司会・記録ができるようにしておく。）

《注意》 グループ活動を目的なくやることで弊害がある。

※学び合い、グループ活動の問題点

- ①学び合いは答えの教え合いになる危険性がある。
- ②グループで活動させると、一人（一部）の生徒に任せっきりになる可能性がある。

↓ そうしないために

何のために話し合うのか、何を話し合うのかを教師がしっかり持って、グループ活動を行うべき。

3 言語活動（書く活動）

書く活動の重要性

広島大学の大学入試において、採点に一番時間がかかるのは数学である。解答用紙に書かれている答えだけを採点するのではなく、問題用紙の隅々まで見て受験者が何を考え、どのように解いたのかという思考の流れまでしっかり見る。

大学で必要としているのは本当に力がある人材。ただ答えを求めることができるという結果だけでなく、それに行く着くための過程の方が重要である。大切なのは知識（いかに知っているか）ではなく、それをどのように活用するかである。

そのため自分の考えを整理し、わかりやすく表現するなどの書く活動を、普段から行うことが非常に大切なのである。継続は力なり。日頃から訓練することが必要。

- 中学校で話し合いをするのなら、まず手が動かないといけない。話し合うためのネタを書く。
- 答えを書かせるのではなく、なぜそう考えたかのプロセス（過程）を書かせる。（数学では途中式）そして答えを伝え合うのではなく、なぜそう考えたかを話し合うことが大切。